

充電インフラ整備に関するモデルプラン

【充電インフラ配備に向けた主な流れ】

都道府県に設置する場合は、1. 大都市、2. 主要道路、3. 大都市以外への順に配備していくことが望ましい。

1. 大都市への配備

5～10kmメッシュを設定し、
各メッシュ毎に1箇所以上

2. 主要道路への配備

10～30km間隔で1箇所以上

3. 大都市以外への配備

人口、面積等に一定数を配置

【大都市の考え方】

- 居住者・事業所が多い都市を想定
- 地域における相対的な集中度で把握
- 一つの考え方としては、地域の各地区を以下の評価指数で評価したうえで、その偏差値が150を超えるような都市

評価指数

$$= (\text{人口密度}[\text{人}/\text{km}^2]) \times (\text{事業所密度}[\text{事業所数}/\text{km}^2]) \times (\text{面積}[\text{km}^2])$$

【設置間隔の考え方】

- ①幹線国道 : 10km間隔
- ②地方国道等(大都市含む) : 10km間隔
- ③地方国道等(中核都市含む) : 20km間隔
- ④地方国道等(小都市のみ) : 30km間隔
- ⑤高標高地域国道等 : 10～15km間隔

※交通量を把握している場合は、一つの考え方として、以下の算式で得られる間隔よりも短めに設定

設置間隔

$$= -0.00064 \times (\text{交通量}[\text{台}/\text{日}]) + 38.8$$

【充電器設置箇所数の考え方】

- 対象地区の人口、面積等に応じて、当該地区内の充電器設置箇所数を設定
- 一つの考え方として、以下の算式で得られる設置箇所数以上を設定

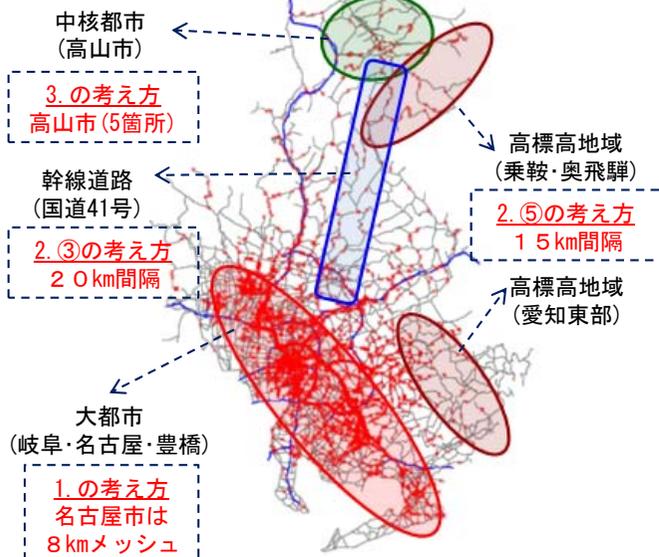
充電器設置箇所数

$$= 0.0006 \times \text{ST評価指数} + 0.822$$

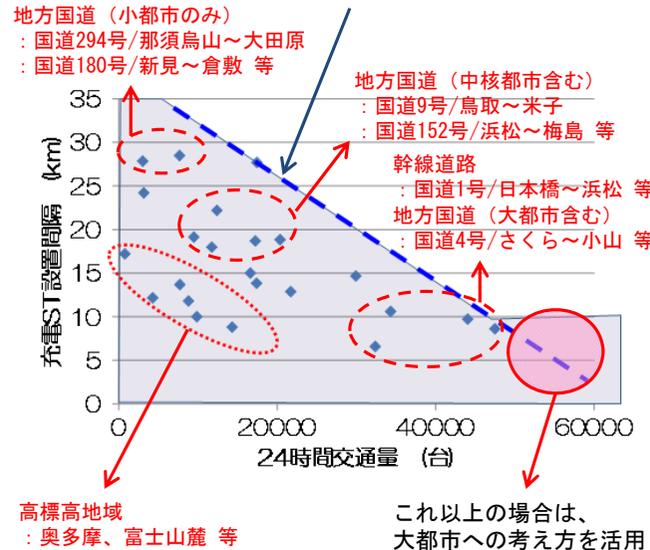
ST評価指数

$$= (\text{面積}[\text{km}^2])^{0.68} \times (\text{人口}[\text{人}])^{0.2} \times (\text{事業所数}[\text{事業所数}])^{0.19}$$

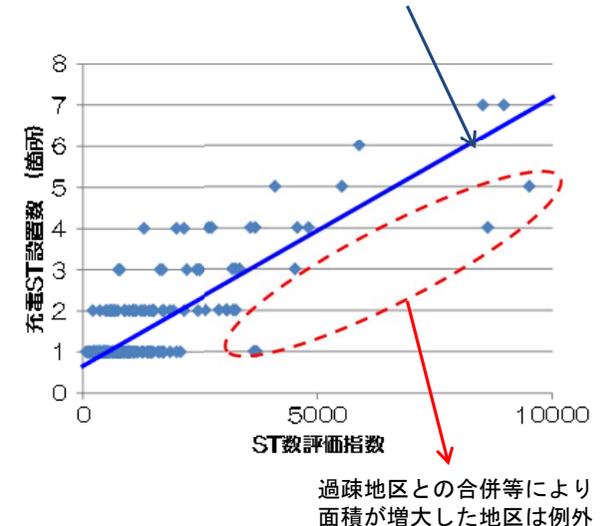
【愛知県-岐阜県】の例



$$y = -0.00064 \times (\text{交通量}[\text{台}/\text{日}]) + 38.8$$



$$y = 0.0006 \times \text{ST評価指数} + 0.822$$



(注) 本モデルプランは、「クリーンエネルギー自動車等導入促進対策費補助金」の交付を受けて、一般社団法人次世代自動車振興センターが一般財団法人電力中央研究所に委託した「充電ステーション最適配置に関する解析調査」を元に、経済産業省が作成したものです。当該調査結果はある前提をおいた上で電欠発生率を最小化するために実施したシミュレーションに基づくものであり、本モデルプランを満たしていても必ずしも実際は電欠率がゼロとなるとは限らない点にご注意ください。

また、1つのシミュレーション結果に基づくものに過ぎないため、これ以外の考え方を否定するものではありません。